

伊吹山

池松 孝子

伊吹山は滋賀県と岐阜県の県境を南北に走り、古くから霊峰として知られ神が宿る山として山岳信仰の対象であった。『日本書紀』には日本武尊が東征の帰途、伊吹山の神を倒そうとして返り討ちにあったという神話が載っている。また山頂にある野草園は室町時代後期、織田信長によって造られたと伝わる。

1964年、深田久弥によって日本百名山に選定され、百名山ブームで登山対象の山として有名になった。さらに1965年、伊吹山ドライブウェイが開通した。これで9合目まで車で上げられるようになり、観光地と化したのである。年間20万人以上の観光客でにぎわう。観光案内書には「終点は1260m、雲の上まで駆け抜ける！ 全長17kmの絶景ドライブコース」とある。中腹にある上平寺駐車場からは東に濃尾平野、西に琵琶湖を眺める。ここから山頂駐車場までは30分。木々はさらに低くなり、空はさらに近くなっていく。東に名古屋、岐阜、西に琵琶湖、比良山系、南に鈴鹿山脈を望む。夏には雲海も楽しみ、夕日は琵琶湖方面へ沈む。

鴉色の残照雪の伊吹山

武井 保

今年、この米原市伊吹地区で床上まで土砂が流れ込むような土砂災害が発生した。一か月に三回、同じ所での土砂災害もあった。激しい雷雨で登山道は土砂に覆われた。これは鹿の食害によるものだという。

かつて鹿は冬の寒さにより一定数は越冬できないで死んでいた。それが近年の温暖化によって積雪量も減り、簡単に冬を越し易くなった。加えてハンターの減少により鹿は増加する一方だ。適正数の10倍以上の鹿が生息している。大木の皮のみならず一年を通して大量の草を食べている。

そういえばドライブの途中で目にした鹿は観光客のカメラにも人にも動じることなく、悠々と草を食んでいた。増えすぎた鹿と土砂災害、それによって保水力の無くなった斜面。草がなければ雨は直接地面に打ち付ける。そして土砂水が斜面を削っていくのだ。